

しろはく活動記録

# 古地図と城の泉 第65号

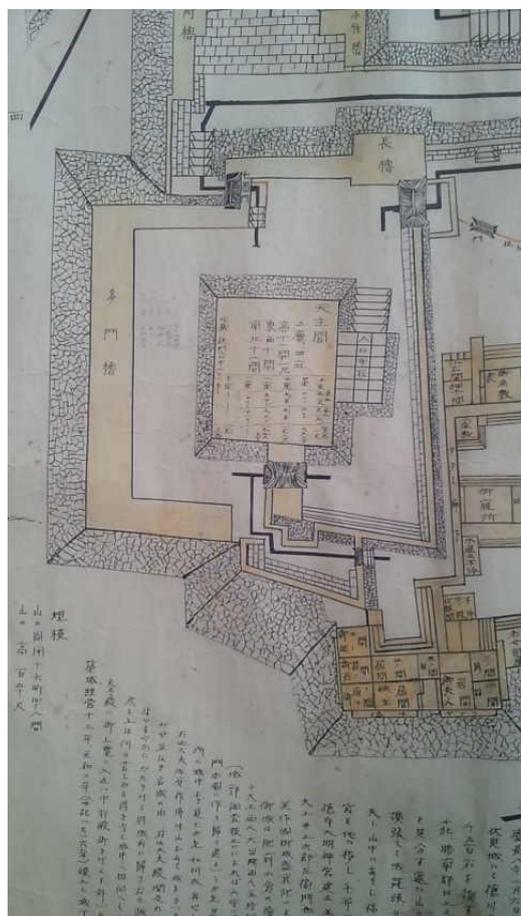
## 大日本築城史編纂資料津山城絵図 陸軍省城絵図鳥羽城下控絵図発見

平成30年8月1日

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

城郭現地調査報告及び資料調査 博物館事業報告

### 1・大日本築城史編纂資料発見津山城重要部細図

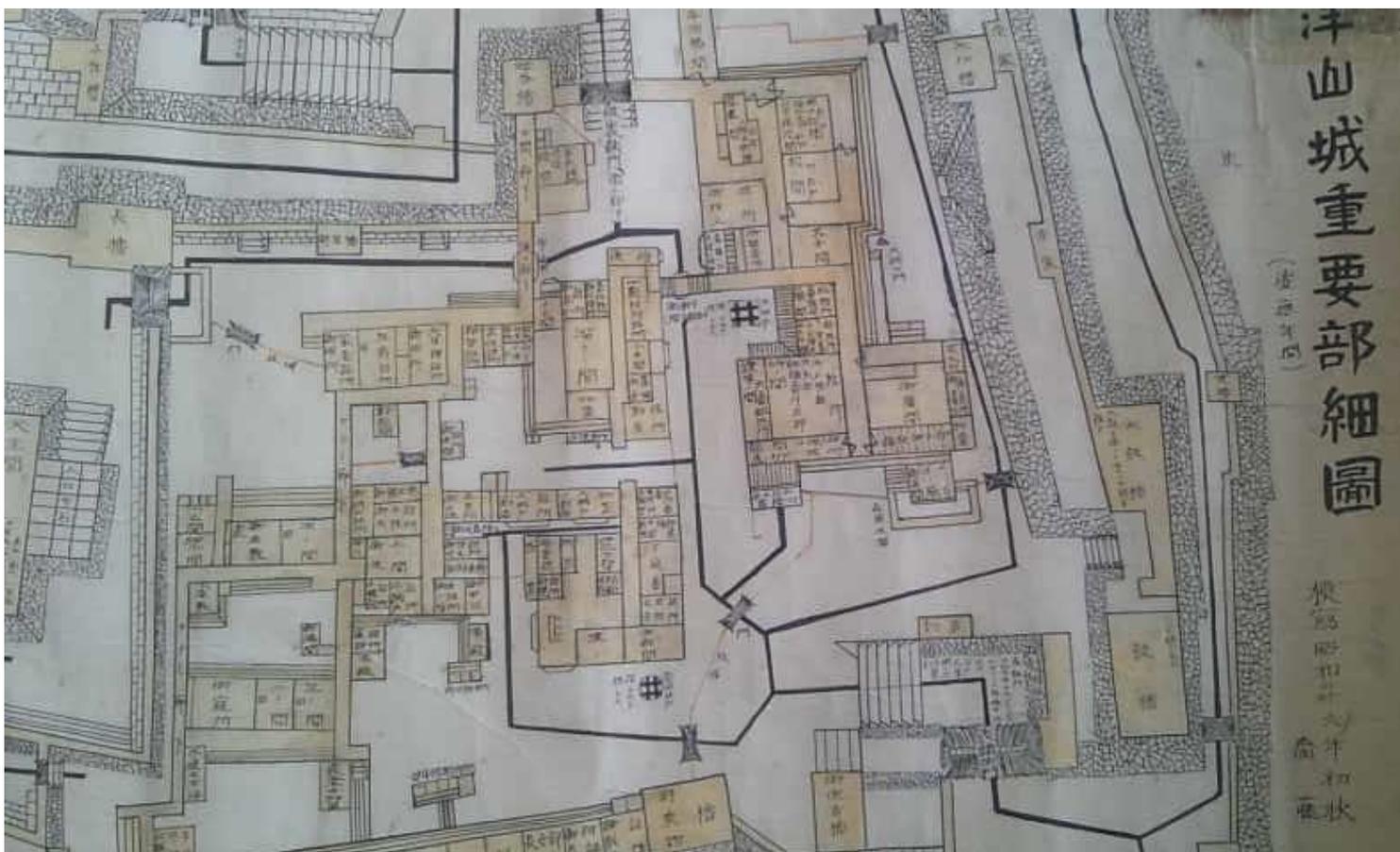
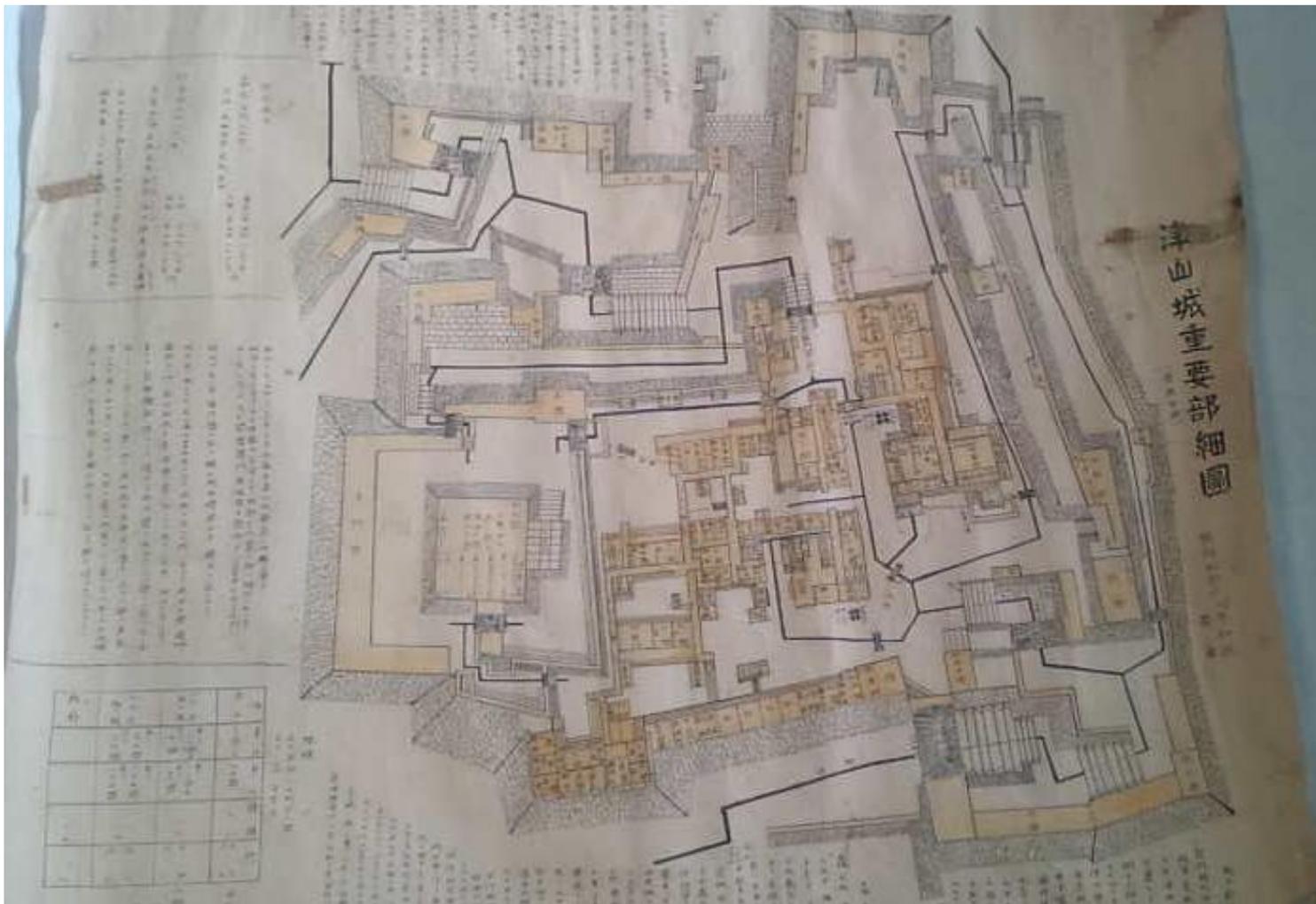


大日本築城史は明治41年4月内議決定され、編纂儀範が作成されている。富原文庫では築城史料とセットにされていた明治43年の「築城に関する実験」を大日本築城史稿本としてしろはく双書11・12号で2003年紹介、さらに2009年に関西城郭研究会で「国難の時代 幕末軍事史から見た砲術と城郭 附・明治以降陸軍城郭研究編年史」城193号として、築城学教程約100冊の編年から陸軍の城郭研究の経緯を発表した。

津山城絵図は昭和26年の模写であるが、「昭和14年陸軍省は日本築城史編纂に当たる。全国古城は642城中60城を選ぶ、岡山県下に於いては岡山城、津山城の二つ代表となり、津山城趾一帯の調査測量せらる」とある。本図はその際、「矢吹正巳が旧殿中出仕中奥目附西尾源右衛門大目附小澤泰、平井真澄二の諸氏に質し、慶応年間の現形（西紀一八六六年頃）を漸く苦心完備せられたものなり」とあり、藩士時代の城郭及び建物図は伝来していないと記している。

陸軍の城郭研究はなお、ほとんど無視されているが、2009年に関西城郭研究会で発表した陸軍城郭研究史総目録を最後に掲載しておきます。その後、増加し、又、手に

入れ逃した資料もありますので、これですべてではありませんが、暗闇の時代の模索史料として、活用してください。なお、中山光久先生模写城塞繹史はしろはく双書で一部復刻した。





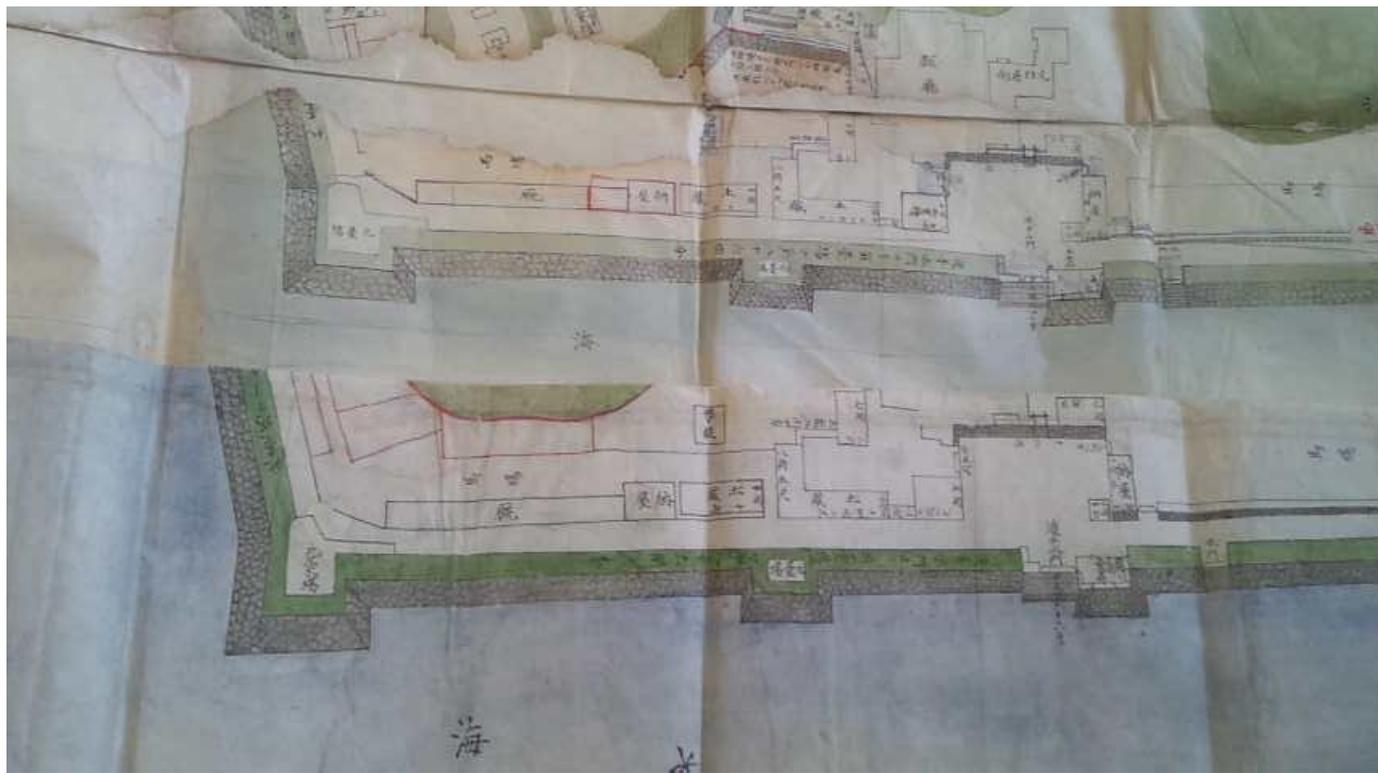
## 2・陸軍省城絵図鳥羽城下絵図発見 上、下絵図中心部・下、陸軍省城絵図

陸軍省城絵図を出版していただいた戎光祥出版の伊藤社長に、おかげで万一の場合の焼失リスク



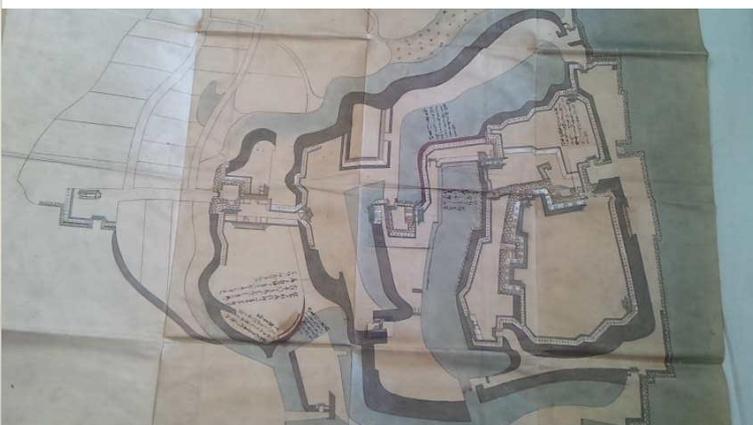
管理が出来ましたと謝意を表した。万一の原資料の損失による消滅や分散を恐れたわけですが、絵図集の出版で記録保存ができたということに成ります。ところが、効果はさらに広がりました。あの絵図が公開されたことで、始めて類似の絵図が陸軍省城絵図作成の経緯共に、下絵が証明されることになりました。7月20日に鳥羽市教育委員会さんが盆野さんの紹介でともに来場されることになり、時間をいただいたので関連絵図を整理しました。なんと下絵図控と書かれた鳥羽城絵図が陸軍省城絵図鳥羽城と全く同じでした。これも陸軍省城絵図があって初めて下絵と証明されたものでした。元々全国124城絵図の解析は各地教育委員会さんに茹れるつもりでいましたが、その下絵が証明されることは想定外でした。これまでも多くの下絵が京都市総合資料館に所蔵されている等、出版お際に報告しましたが、手元にあるとは思

いませんでした。同時に鳥羽城絵図として伝来した丸亀城絵図や刈谷城修理絵図、資料の解析と整理がいかに必要か、順次、公開します。



上、下絵図 下、陸軍省城絵図

鳥羽城絵図と伝来した丸岡城絵図と刈谷城絵図



刈谷城修理絵図

### 3・文化財支援事業

**図説戦国北条氏と合戦** 戎光祥出版 陸軍省城絵図上総佐貫城掲載

**御一新沼津の幕末維新** 沼津市明治史料館・富士山かぐや姫ミュージアム・三島市郷土資料館共同企画展 陸軍省城絵図沼津城有形縮図・二の丸住居絵図複製展示、図録掲載

**鳥羽市教育委員会鳥羽城絵図調査、撮影** 別記

**新潟県立歴史博物館** 7月14日戊辰戦争展開催 錦絵貸出し

## 新収集情報報告

掲載は入手順に入手後、翌日に記載しています。メモ代わりの備忘録ですので順不同です。

掲載分類は城郭図、城郭錦絵は城郭、群馬地図、資料は群馬、錦絵地図は錦絵、地図類は航空写真も地図、錦絵軍事、砲術、調練は軍事、後はタイトル通りです。

### 1・古絵図・古地図

**札幌市勢一覧・札幌市地図** 大正15年

**金沢新市街地図** 大正15年 供田太七 供田書店

**越中国立山禪定名所附図別当岩峯寺** 木版

**新街鳥取市地図** 昭和4年 横山敬次郎

**陸地測量部発行地図区域一覧表** 大正14年 2万・2, 5万・5万・1万・100万東亜輿地図・関東州・50万輿地図・100万萬国図・20万帝国図・輯製20万 小林又七

**地形図図式説明** 大正12年 写真と記号 陸地測量部 2枚一組

**明治四年頃佐伯藩時代屋敷図** 昭和8年 高瀬佐佑

**富士山神系御山絵図** 木版手彩色 川口御師長官拝書 額入り

**長崎古版画出島阿蘭陀屋鋪景** 木版複製

**日光山仏地絵図** 木版 鉢石宿鈴木喜二治

**信州木曾御岳山絵図** 木版

**信濃国木曾御嶽山全図** 木版色刷

**金刀比羅宮大祭之図** 木版色刷 明治25年 藤本長次郎

**京都御室大内山仁和寺真景** 銅版 団扇堂藤田又次郎

**厳島神社之細図全** 銅版 明治11年 山口音二郎

**事比羅宮城内殿舎之略図** 明治12年 清水為蔵 銅版細密

**丸亀ヨリ金比羅善通寺弥谷寺道案内記** 木版 葎太舎通憩

**宮崎県地形図** 明治21年 宮崎県農商課

**丸亀ヨリ金比羅山讃岐廻並播磨名所附** 木版

**立山温泉之図** 開湯案内 木版色刷 旧道新道案内 明治 上新川郡元利田村温泉元深見謹言

**東京方角一覧絵図・改正東京区分町鑑** 明治14年 細密銅版鳥瞰図 平野伝吉

**再刻新板校正袖中至宝御江戸絵図** 安永10年 原子感 出雲寺和泉掾 木版手彩色

**皇国第一等温泉熱海全図** 明治24年明治29年改正 小川徳太郎 銅版細密鳥瞰図

**京都御所絵図** 肉筆彩色細密絵図

**大阪府管内区別細見図** 明治8年 北野文龍 銅版色刷

**会津歴代城下明細全図** 高橋修斎 明治22年 丸屋活版所

**越後道程絵図** 116 x 202 cm 木版色刷

**越後古志郡之図** 木版色刷

**武州高麗郡之図** 木版色刷

防府町全図 戦前 裏広告67件

江戸絵図不忍池周辺・江戸図写し 肉筆彩色絵図

豊橋商業会議所地区内図 12000分I

盛岡市全図 12500分I 市役所

長岡市全図 10000分I

伯耆国大山略図 木版色刷 明治28年 杉原英雄

鞍山製鉄所選鉄工場説明図 南満州鉄道

福島市 昭和6年 土井利周 市街図と広告多数

津市全図 戦前刊記無

東京1万分I地形図38枚 昭和4年 上高井戸・荻窪・小岩・舎人・西新井・浦安・行徳・花畑・志村・碑文谷・溝口・経塚・市川・二子・四谷・三田・品川・品川台場・新橋・日本橋・蒲田・新井・中野・世田谷・田園調布・矢口・洲崎・練馬・王子・石神井・早稲田・大森・深川・三河島・向島・千住・吉祥寺 縁なし

地番整理資料換地設計図地番整理図 900分I 7か所9図 東京

東京都市計画図1万分I・町界町名整理図

新区資力表・新区区域表 昭和7年 東京

各種地形と其の現図着眼其一・其二 陸地測量部 代表地形地図19枚に解説

## 2・古典籍・古記録

加賀藩勤方帳 御出生年月・御鎖口番勤方書上之写・諸点先繰出し定・絵図多数・御給事方心覚・

但馬考卷2・3・5 出石城臣桜良翰輯 天明7年 写本 丹州松江隠医山根道澤 全6巻5冊内3冊 2冊年代2巻・3冊地理3-5巻・5冊6巻人物

井伊御誠伝記全10冊13巻内8冊9巻 写本

## 3・印刷資料

### 4・錦絵・引札・双六・絵葉書・古写真

長崎古版画 南蛮船・阿蘭陀人等10枚木版色刷

錦絵役者絵忠臣蔵 国政 3枚続き 明治16年

錦絵役者絵 国周 3枚続き 明治19年

錦絵日光山両社真景 3枚続き 鬼平金四郎 明治18年

日清戦闘画数潮陸(雙六) 両国加賀屋 明治27年

東京日本橋魚市場引札 今串木合名会社 明治31年曆

東京魚市場引札 尾松商店 明治42年曆 石版色刷

錦絵役者絵3枚続き 国周 山名屋湯里・春日屋肘次郎

錦絵役者絵3枚続き 周延 明治13年 比能道成寺美人之春奥

錦絵役者絵3枚続き 国重 浅岡・千代松・鶴千代・片岡小十郎

錦絵役者絵3枚続き 周延 化け猫 大領・お登よの方・伊東惣太

錦絵役者絵3枚続き 周延 明治15年 小野通風・女郎花姫・小野頼風・

錦絵役者絵3枚続き 国周 皇后の宮御歩行ノ図

錦絵役者絵3枚続き 国周 明治16年 久我之介・貞高後室・雛ど里・大判司清浣

錦絵役者絵3枚続き 国周 明治16年 武智光秀・初菊・重次郎光義・妻みさ

錦絵鹿兒島戦争畳楯図 芳年 明治10年 3枚続き 畳を重ねて弾除けにしている

## 5・軍事資料・武器武具

錦絵訓練早合点 芳虎 大判1枚

## 6・城

**末森古城図** 写図 末森合戦絵図 天正12年9月12日越中佐々成政の末森攻め。同じ絵図は金沢在住時代40年前に所蔵している。

**名古屋城古写真** 名古屋城天守を北から眺め、東北の城外から深井丸北堀底に東から西にかけて軍隊が架橋している。明治から戦前のなんらかの修復工事に関連したものと思われる。名古屋市鍋屋町電燈会社前写真師小川和泉とある。

**砲家必読初編二** 攻城拔的列総説・破塁拔的列等 砲壘絵図

**兵法奥義書山本勘助記乾坤** 文化元年 撰陽書肆小刀屋六兵衛 形勢・拳法・剣法・棍法・長道具・弓法・鉄炮 人利之巻二一条・地利之巻二十条・天利之巻十三条

**武田流軍学全書天地人3冊** 昭和10年 甲陽軍艦・甲陽軍鑑末書・信玄全集末書・甲陽軍鑑末書 結要本・甲陽軍鑑評判・甲陽軍鑑弁疑・武具要説・兵法秘伝書・景憲家伝・兵家古戦伝・練兵要録・武田射体日記・武田弓箭日記・武田兵術文稿 折込合戦図城絵図多数

**江戸城木版色刷** 41 x 70 cm

**名古屋離宮城之図** 耕文堂 明治29年 後藤彦右衛門

**油絵森岳城(島原城)** 額入り 畑農照雄 21 x 26 cm 額37 x 43 cm

**江戸御見付略図** 木版

**山城平城縄張絵図** 明和元年2枚・宝暦14年・不明 渡辺一通 絵図4枚

**土佐古城伝記吸江寺十境** 明和二年

**錦絵太平記元弘元年山城国笠置城合戦図** 芳員 3枚続き

**源頼朝公奥州泰衡征討之図** 芳虎 3枚続き 前号紹介同一錦絵

**前号写真掲載洩れ** 城模様小柄と鯨香合



**城郭文献** 茨城の城門・城下町の歴史地理学的研究・古代学研究63・大内氏館跡Ⅲ・大坂城天下一の名城・新潟考古学会20周年記念講演会要旨集・川越城跡Ⅱ・江戸城跡北の丸公園地区遺跡・久保田城跡藩校明德館跡・津田城遺跡・史跡

鉢形城跡保存整備基本計画概要版・松尾城跡調査研究報告書・津久井城の調査VI・V・葛西城址発掘調査報告1983・青鳥城跡・総州佐倉城・犬山城総合調査報告書・論集富山城研究・古墳と豪族居館・木付城藩主御殿そして城下町杵築のはじまり展示図録・中世の城館跡4種・徳丹城跡・今泉城跡・史跡小田原城跡二の丸中堀Ⅲ・北谷城1・蓮花寺跡相良頼景館跡・伐株山城址・史跡鉢形城跡保存管理計画書・杷木神籠石・一国山城跡・吉田城遺跡Ⅱ・米原の城・霊仙山をめぐる山城・深溝城跡・城下町福井・明石の近世明石城築城時の姿・小田原北条氏の絆・宮津という地に居城を拵え地中に眠る宮津城・高虎と嘉明・熊本城の被災修復と細川忠利・駿府城丸わかり・秀吉黒田官兵衛見参馬ヶ岳城の世界・佐倉城下町400年記念事業城と町と人と・天下人の城京都市・山口城跡・大政奉還と幕末の二条城・膳所城と藩政・安土考古博物館収蔵品で語る城郭と考古・特別展兵庫山城探訪・史跡諏訪原城跡平成21-27年・司馬遼太郎と城を歩く・藩政時代広島城明細絵図・彦根山由来記・因幡鬼ヶ城・熊本城史梗概・日本の名城70・気ままに城巡り・城あるきのススメ・城めぐり手帳・藤目城・長篠の合戦・備中高松城の水攻め・かながわの城・安土城天守復元図国華988号附録・地形で読み解く日本の城・蘇る城・川越市初雁公園基本計画審議会説明資料第1～3回・御一新沼津の幕末維新・

**城絵葉書** 名古屋城5種・大坂城2種・会津若松城2種・弘前城・萩城・伊賀上野城・熊本城3種・二条城・松山城・小諸城三の門・広島城・松本城・山下清小田原城絵葉書2枚・

**購入見合わせ** 白河城の図42000円大きく精緻であるが文字情報がないため遠慮・主図合結記バラ多数所蔵済み・御台場之図918000円27x835cm19図品川台場以外の江戸湾の台場絵図と思われるが、そろそろ資料発掘は中止にし、所蔵資料の整理紹介にかかりたい・滝川一益森庄蔵城図巻262000円所蔵済・城取大意31500円有沢軍学署はまとめて所蔵済・

## 7・群馬県史料

**台湾館 府県連合共進会** 群馬県 明治43年 台湾総督府出張所吉井弘治編 前橋印刷所  
**新製町村上野国全図全** 内野健吾 明治23年 銅版色刷

## 8・その他

**明治二十八年台湾平定記** 杉浦和作 明治29年昭和9年再版 台北新高堂書店

## あとがき

### 1・猛暑に負けてる暇はない。1回目。さらに豪雨、2回目真夏日、負けた。家でパソコン三昧

平和島骨董市が終わり、大量の錦絵や銅版鳥瞰図をお求めいただいた。一段落と思いきや、8月3-5日は日本最大の骨董市東京ビックサイト骨董ジャンボリーが始まる。8月7日には古書同好会の目録締切、さらに日本の古本屋ネットからの発注も連日頂く。神田のナンバーワン古書店からも発注いただいた。一度、東京神田古書会館への古書展参加もお誘いいただき検討したが、今ではとても余裕がない。ネットのコレクターさんからの問い合わせにも追いかけている。各地博物館、図書館、研究者からの探究資料にお応えする館内の資料整理も大変な量で、骨董市には全国の資料、錦絵類、目録には高齢者向けの新収資料480点、日本の古本屋には古地図古文書等1600点掲載、早くとりあえず、2000点にしたいが、問い合わせの応答に追われ、はかどらない。わざわざ遠方からの来場いただき、駅から近いが、安中榛名駅の新幹線到着発着が少なく、ご迷惑をかけている。

猛暑が終わったかと思うと、言語に絶する西日本の集中豪雨、わずか3分で2m近い増水、考えられない。多くの友人が被災されている。心からお見舞いさせていただきたい。房総水害の際は友人がへりで救助されていた。西日本特に瀬戸内は気候温暖で、兵庫在住時代は住みたいと考えたこともありました、無事をお祈りします。猛暑は終わらなかった。今日、車で1時間の埼玉県熊谷で41, 1度、通勤の人は大変。

## 2・各地から古地図、城絵図鑑定・買取依頼

城絵図3巻、蝦夷絵図、修理絵図等各地の方から鑑定依頼や買取依頼がある。城郭研究家の場合はお互い価値を共有できるので、話が早い。古書店は城名が確認できない場合は送ってこられる。個人の方でお先祖の遺品の場合は鑑定依頼に成るが、此方から相手は見えない。詳細に説明してもなしのつぶてという失礼な方も後を絶たない。骨董市に持参される方は古物営業法でその場で買い取りは出来ないが、鑑定の上、後日、買取している。業者さんの市場ではだいたい城絵図は集めてきていただける。若いころ全国の古書店をほとんど踏査した成果で、どこに何があるか、想定可能である。今でも大半の古書店は日本最大の城コレクターと理解していただいている。日本の古本屋も画像をまだ掲載していないため、金額によっては詳細の問い合わせが後を絶たない。と思うと後学に加藤清正書状を文字だけでお買い上げいただいた。連日古書同好会の目録と日本の古本屋の目録に追いかけているが、この問い合わせに半日とか場合によっては1日かかり、登録が一向に進まない。この猛暑を利用して、早く処理したいと焦りが募ります。

## 3・古書同好会目録作成 古地図古典籍480点 8月25日発行予定

5年で、書庫を空にすると宣言してもだれも信用しない。思い立って1階ホール古典籍室の整理にかかったが、さんざん苦勞してわずか本棚2つ。しかも、ずっと御引き合いのある日本の古本屋に比べ発行後2週間の命、短期勝負である。常連の顧客が圧倒的な目録、不特定多数の日本の古本屋ネット、時代の速さを感じつつ、頭を抱えています。複雑な説明解析が必要な古文書、古地図。錦絵、古典籍に比し簡単な洋本類はアルバイトがいいなあと能力不足を自覚。それにしても暑い、豪雨災害の被災者の方を見ていると言葉がないが、熱中症で倒れる年ではあることを自覚。

### 発行所

---

#### しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

379-0109 群馬県安中市秋間みのりが丘5-73

携帯電話 090-2722-4689(しろはく)

FAX 027-315-4689(しろはく)

Eメール [shirohaku@kym.biglobe.ne.jp](mailto:shirohaku@kym.biglobe.ne.jp)

ホームページ <http://www.shirohaku.com/>

---

#### ミュージアムショップ 群馬県古書籍商組合加盟

#### 博物館資料専門店

#### 古地図と城 古書肆 城郭文庫

代表

富原道晴

---

## 旧陸軍による城郭資料の編纂 築城学教程の系譜 関西城郭研究会誌発表資料

『明治以降、政府、陸軍による城郭資料所蔵目録』は、富原文庫の旧陸軍資料を始めて、体系的に編年整理したものです。多くの漏れが見受けられますが、其の履歴を探ることで、今回、始めて、旧陸軍の研究史を明確にできたのではないかと考えています。それでは、編纂の完了した目録をご覧ください。

### 明治以降、政府陸軍による城郭資料目録(所蔵富原文庫) 2009年1月4-11日作成

- 1) 本目録は明治政府、旧陸軍に於ける城郭への関わりを理解するために、富原文庫収蔵の陸軍城郭資料のみを、始めて、抽出し、編年したものです。測量、銃砲等関連分野についての旧陸軍の総合的な実績を明らかにすべきと考えますが、次回とします。
- 2) 旧陸軍の翻訳本については、明治以降であっても、除外し別目録としました

1 明治4年1871年8月 『兵部省告知、廢藩、兵制改正、鎮台置管(仮)』木版 兵部省

東京・大坂・鎮西・東北鎮台、分営常備兵、

常備兵は元藩下之常備兵を召集

地方城郭之義兵部省管轄、明細之図面相調早々兵部省へ可差出事

2 明治6年1873年7月19日 『太政大臣三條実美布告第二百五十五号鎮台条例別冊』

56條 鎮台条例別冊改定布告、

東京・仙台・名古屋・大坂・広島・熊本鎮台・北海道等7軍管

14師管40營所 京都府知事・堺県庁布令・市販計3冊所蔵

3 明治9年1876年 『築城教程』内題築城教程読本 明治9年8月陸軍士官学校学科部

1 一般の要領並に定説 2 野堡を総称して堡壘の名目 3 経始 4 堡壘内部の編制 5 副防禦  
6 遮蔽法及び野堡構築 7 変地に於ける堡壘 8 設堡陣地の攻撃及び守防 9 野堡の活用 付  
図91図欠 和装活字本96枚

4 明治15年1882年 『臨時築城教程第一版全』明治15年6月19日 陸軍文庫

1 総論築城の定説 2 堡壘 3 経始 4 堡壘内部の編制 5 副防禦 6 遮蔽法及び野  
堡の構築法 7 陣地防禦編制法 8 野堡の活用 9 原野に於て軍隊の定位に関する作業 10 野堡の  
攻撃法・防禦法 和装活字本138枚 付図1—34版要塞225図 同一本2冊及び付図のみ1セッ  
ト収蔵

5 刊年不明 『臨時築城教程第二部付図』大判1—29版要塞127図 本文欠

堡壘別工手数、器具数、時間、備考

1—6表 軍隊単位別配付器具表、工事の簡略法

6 刊年不明印刷推定明治17年以前『永久築城第二教程卷之二』第五編 海岸築城和装111枚

7 明治17年1884年 『築城学教程永久之部第五編 海岸防禦 第一版』陸軍大学校講本

明治17年9月 陸軍大学校助教工兵大尉三村友芸編纂 陸軍文庫蔵

8 作成年不明 『要塞砲兵砲台勤務完』草稿 手書き33枚 しろはく双書15刊行

1 部砲台勤務 1 砲台の区分及び統属 2 指揮の連携 3 指揮官 4 警戒勤務 5 砲台内の勤  
務 6 宿営 7 衛生 8 給糧 9 弾薬の補充 10 材料及び砲台修理

2 部砲台演習 1 一般の要領 2 演習の結構及び実施 3 演習材料 4 回図及び報告

9 明治26年1893年 『軍事学』明治26年9月14日—10月5日軍事学講義4回

測図学、国軍の編制、野戦軍背後勤務等合冊 著者不明活字本付図17図

10 明治28年1895年 『二十八年第三版 築城学教程 永久築城の部 卷四』和装本

付図1—45版165要塞図 同一本2冊収蔵 刊行所不明

11 明治31年1898年『三十一年改訂 築城学教程 卷1・卷3・付録』卷2欠第73号

陸軍士官学校 明治31年12月本書により築城学を修習スベシ

卷1 臨時築城之部 明治20年12月編纂 22年1月改訂 23—28年毎年改訂増冊 30年改訂増冊  
31年12月陸軍工兵大尉堤吉次改訂増冊 174ページ

付図44版238図 洋装本

卷3 永久築城 116ページ付図40版144図 洋装本

付録 野戦工事必要人員器具時間表 小型1枚6折本

12 明治32年1899年 『三十二年初版築城学教程卷之二付録』交通学応用作業教例

明治32年7月教官陸軍工兵大尉岡田直方編纂 洋装本

56ページ 1—4表 6版18図

13 明治33年1900年 『砲兵学校 要塞戦史第一版』明治33年7月5日工第107号

陸軍砲兵学校 1864年ジュツペル要塞の攻守 付録攻城計画案 付図5版

14 明治33年1900年 『三十三年改訂 築城学教程卷1付録・2・3・3付録』

卷1 付録3 3年改訂臨時築城学応用作業教例 62ページ

1—3表 付図6版13図 同一本2冊

卷2 明治31年12月陸軍工兵大尉熊野御堂武夫編纂

32年・33年1月・12月増冊

交通(道路・橋梁・鉄道・電信) 116ページ

付図32版163図

卷3 明治32年3月陸軍工兵大尉伊藤直光編纂 33年34年増冊

永久築城 117ページ 付図35版123図

卷3 付録 内題築城沿革略史

明治33年4月教官陸軍工兵大尉庄田藤治編纂

34年9月教官陸軍工兵中佐榊原昇造増補

1 外国築城の沿革 2 本邦築城の沿革 19—80ページ

付図17版23図

18 図大庭古城

19 図菅谷村古城 明治33年3月29日歩兵中尉多賀宗之著

20 図松山古城 明治33年4月1日騎兵中尉佐伯岩二

21 図鉢形古城 明治33年4月10日測図歩兵中尉吉田護朗

騎兵中尉壬生基義

23 図五稜郭平面断面図 陸軍工兵大尉岡田直方

15 明治34年1901年『三十四年改訂築城学教程卷1・1付録・2・3・3付録』第百号

卷1 明治34年9月陸軍士官学校 135ページ 付図26版151図

卷1 付録 35年3月改訂33年と同様

卷2 35年1月増冊 104ページ基本33年同様付図24版134図

卷3 明治三十五年改訂 112ページ 付図27版95図

卷3 付録 築城沿革略史 78ページ付図は33年と同様 同一本2冊

16 明治35年1902年『明治三十五年要塞戦術学教程第三版全』陸軍砲工学校工第132号

本書により要塞戦術の科目を修習すべし 明治35年8月30日

要塞戦術とは築城学教程の一部として講授 和装本181枚

第1版 明治25年2月陸軍工兵大尉中村愛三編纂 第2版 26年改訂

第3版 30年8月改訂 31年12月新教則に基づき1科となす。

引用書目 1899年佛国攻守城教令 1899年奥国プリンネル要塞戦術

1898年白国ドギース要塞の攻撃及び防禦 1901年独国スターベンハーゲン要塞戦法

1897年奥国ジクムンドミーリヒホーフエル海岸要塞戦 1899年同築城学海岸防禦 明治

33年陸軍要塞砲兵射撃学校編纂海軍戦術 1 陸地要塞戦 2 海岸要塞戦

17 明治35年1902年『明治三十五年築城学教程 素質 第六版』工第137号

『明治三十五年築城学教程 素質 第六版 付図』

内題砲工学校築城学教程 2冊 明治三十五年12月3日

陸軍砲工学校 和装本59枚

明治24年5月開刷 陸軍工兵大尉石川義仙編纂

引用書目 1896年佛国砲工学校著築城学教程第2部等

大判付図 53版120図

18 明治36年1903年『明治三十六年築城学教程 要塞編成 第7版』工第145号

明治36年6月16日陸軍砲兵学校 和装本118枚

19明治40年1907年 『四十年改訂 築城学教程 卷1・1付録・2・2付録』第153号

明治40年12月陸軍士官学校

卷1野戦築城167ページ付図付表 卷1付録93ページ付図

卷2交通157ページ付表付図 卷2付録92ページ付図

20明治41年1908年 『明治四十一年 築城学教程 第一版 築城歴史』工第192号

明治40年11月5日陸軍砲工学校 和装本53枚付図16版56図

本書 元築城素質の一部として明治36年陸軍工兵少佐松井倉之助 大尉島捨吉編纂 大尉松井順訂正築城歴史第1版とする

21明治41年1908年 『教範改正草案対照 野戦築城研究』明治41年1月20日XYZ著

東京厚生堂刊行 卷上126ページ 下欠

22明治42年1909年 『明治四十二年 築城学教程 海岸築城 第十二版』工第208号

明治42年2月27日陸軍砲工学校 和装本83枚

第1版明治24年石川工兵大尉以下11版まで改訂

23明治42年1909年 『明治四十二年 築城学教程 築城歴史 第二版 普通科砲工兵用』

明治42年11月2日陸軍砲工学校 明治41年版と同様

24明治42年1909年 『明治四十二年 築城学教程 素質 第九版 普通科砲工兵用』工第221号 明治

42年11月31日 陸軍砲工学校 和装本58枚

25明治42年1909年 『明治四十二年 築城学教程 要塞編成第2部第十版 砲工兵高等科用』『同付図』2

冊 和装本94枚 大型付図36版56図

26明治42年1909年 『四十二年改訂 築城学教程』卷1-3 付図1-3完

明治42年12月陸軍士官学校

卷1野戦築城184ページ付図付表 付録107ページ付図付表

卷2交通193ページ付図付表 付録68ページ付図付表

卷3永久築城141ページ付図付表

付録1 要塞戦戦例2 外国築城之沿革3 本邦築城の沿革4 海軍の戦闘材料 136ページ 67-126は日本築城史

付図25版36図内25-30図は明治33年版と同様古城図

27明治43年1910年 『築城史料』命第33号 明治43年3月31日築城部本部長村田淳

本書を以て本邦築城術沿革研究の参考とナスヘシ

築城史料は大日本築城史編纂の稿本なり。373ページ。

大庭古城・菅谷古城・釜山鎮城・品川台場・五稜郭・和田岬・川崎・今津・西宮砲台図収録

なお、富原文庫本には明治41年3月『築城に関する実験付表付図』旅順要塞史料89図が合冊されている。これについては、しるはく双書11・12で復刻した。

28明治44年1911年 『明治四十四年 築城学教程 永久築城学、要塞編成第1部 普通科砲工兵用 第十一版』『同付図』2冊 工第234号

明治44年1月9日陸軍砲工学校 和装本44枚

付図 大型本三十一版50図

29明治44年1911年 『明治四十四年 要塞戦史 第二部第一版 高等科砲工兵用』

陸軍砲工学校 和装本148枚 旅順要塞の攻守

30明治45年1912年 『砲工学校 要塞戦史第二部第二版上巻 高等科砲工兵用』

洋装本 273 ページ 本文は明治 44 年本と同様 付図付表が加わる。

- 3 1 大正 3 年 1914 年 『野戦築城教範改正草案』 3 月 1 日 兵用図書株式会社 豆本
- 3 2 大正 4 年 1915 年 『偕行社記事 第 497 号 航空術発達の築城術に及ぼすべき影響を論ず』
- 3 3 大正 9 年 1920 年 『大正九年改訂 築城学教程卷一・二終』 第 279 号  
大正 9 年 1 月 陸軍士官学校 築城は軍隊の戦闘力を保持増進する一要素にして、防者のみならず、攻者もまた之を使用を緊要とすることあり。中略 築城の効用は我火器の効力を発揚し敵火の威力を滅殺するにある。  
卷 1 野戦築城 127 ページ 付図付表付録付図 同一本 2 冊  
卷 2 永久築城 90 ページ 付図 48 版 75 図
- 3 4 大正 9 年 1920 年 『数線陣地に関する研究』 大正 9 年 4 月 陸軍歩兵学校将校集会所  
教官陸軍歩兵少佐 山崎定義口述 112 ページ 付図 64 図
- 3 5 大正 11 年 1922 年 『野戦築城学講授録』 陸軍大学校将校集会所  
兵学教官陸軍工兵少佐高屋康彦述 432 ページ  
付面大型 39 図 付録欧州大戦間野戦築城の変遷摘要
- 3 6 大正 12 年 1923 年 『大正十二年 永久築城学講義録 卷 1・2』 孔版印刷  
中芝工兵大佐述 陸軍大学校 卷 1 68 枚 卷 2 139 枚付図印刷
- 3 7 大正 13 年 1924 年 『要塞戦術』 孔版印刷、手書き資料、付図印刷大量の付図付表 27 問
- 3 8 大正 13 年 1924 年 『日本古戦法全』 参謀本部編纂 大正 13 年 4 月 5 日 参謀本部刊行  
本書は明治 12, 3 年日本兵制沿革誌、日本兵器沿革誌と前後し、陸軍参謀局附廣田忠三郎起草、今校訂の上印刷す。  
兵制・戦略・戦法・斥候・間諜・信号・行進・攻城・守城
- 3 9 大正 13 年 1924 年 『野戦築城教範改正草案』 豆本 大正 13 年 7 月 5 日 225 ページ
- 4 0 昭和 2 年 1927 年 『野戦築城教範』 6 月 1 5 日 陸軍大臣 軍令陸第 3 号 武揚堂 豆本
- 4 1 昭和 4 年 1929 年 『昭和 4 年 築城学教程 要塞配置 第十六版 高等科砲工兵用』  
『同付図』 陸軍砲工学校 工 436 号  
第 1 版明治 29 年 7 月 教官陸軍工兵大尉松井倉之助編纂以降改訂  
付図諸外国要塞配置図折込 25 図
- 4 2 昭和 4 年 1929 年 『昭和 4 年改訂 戦術兵器築城の沿革並戦史集』 397 号 10 月  
陸軍士官学校 第 4 築城の沿革 117—128 ページ内皇国 6 ページ  
付図 菅谷古城、豊臣氏の大坂城、品川台場、五稜郭のみ他図多数
- 4 3 昭和 4 年 1929 年 『昭和 4 年改訂 築城学教程 卷一・卷二』 410 号 10 月  
陸軍士官学校 卷 1 野戦築城 卷 2 永久築城（世界大戦）付図多数
- 4 4 昭和 5 年 1930 年 『昭和 5 年改訂 戦術兵器築城の沿革並戦史集』 421 号 10 月  
陸軍士官学校 日本築城の沿革昭和 4 年版同様
- 4 5 昭和 7 年 1932 年 『野戦築城教範』 3 月 20 日 陸軍大臣 軍令陸第 3 号 川流堂 豆本
- 4 6 昭和 7 年 1932 年 『昭和 7 年改訂 戦術兵器築城の沿革並戦史集』 455 号 9 月  
陸軍士官学校 日本築城の沿革昭和 4 年版同様
- 4 7 昭和 7 年 1932 年 『昭和 7 年改訂 築城学教程 卷一』 463 号 11 月 陸軍士官学校
- 4 8 昭和 8 年 1933 年 『昭和 8 年改訂 学生用 築城学教程 全』 494 号 2 月  
陸軍士官学校 215 ページ付図付表多数
- 4 9 昭和 8 年 1933 年 『赤軍野戦築城教範』 400 ページ 陸軍工兵学校研究部編  
川流堂小林又七刊 昭和 8 年 11 月 20 日 小型本

- 50 昭和9年1934年 『築営教範』軍令陸第6号 4月15日兵用図書株式会社 豆本
- 51 昭和9年1934年 『築営教範』軍令陸第6号 5月10日一二三館 豆本
- 52 昭和9年1934年 『昭和9年改訂兵器射撃築城交通測図航空の沿革集全』509号9月  
陸軍士官学校 日本築城の沿革昭和4年版同様
- 53 昭和12年1937年 『昭和12年改訂 兵器射撃築城交通測図航空の沿革集全』603号9月 78ページ 陸  
軍士官学校 日本築城の沿革昭和4年版同様
- 54 昭和13年1938年 『野戦築城教育規定』教訓第17号 教育総監 4月16日豆本
- 55 昭和13年1938年 『昭和13年改訂 兵器射撃築城交通測図航空の沿革集全』644号  
9月 78ページ 陸軍士官学校 日本築城の沿革昭和4年版同様
- 56 昭和13年1938年 『昭和13年改訂 築城学教程 卷一』668号9月陸軍士官学校
- 57 昭和15年1940年 『昭和15年改訂 築城学教程 卷一』724号4月陸軍士官学校
- 58 昭和15年1938年 『野戦築城教育規定』教訓第17号 10月5日川流堂 豆本
- 59 昭和16年1941年 『昭和16年改訂生徒及学生用 築城学教程 全』99号6月  
陸軍航空士官学校 149ページ付図付表多数
- 60 昭和16年1941年 『昭和16年改訂 築城学教程 卷一』757号8月陸軍士官学校
- 61 昭和16年1941年 『歩兵築城第一部』陸軍歩兵学校 8月野戦築城教範改正用豆本
- 62 昭和16年1941年 『築城交通参考図表』陸軍航空士官学校 14表 小型本
- 63 昭和17年1942年 『昭和17年改訂生徒及学生用 築城学教程 全』132号5月  
陸軍航空士官学校 144ページ付図付表多数
- 64 昭和17年1942年 『昭和17年改訂 築城学教程 全』785号10月  
陸軍士官学校 118ページ付図付表多数
- 65 昭和17年1942年 『図上作戦(築城)』4月14日五十嵐少佐  
『築城教練計画』6月4・24日五十嵐少佐  
『築城之参考』8月五十嵐少佐  
『築城原則』12月3日岡野少佐  
以上4点 孔版印刷又は手書きで実際の講義記録
- 66 昭和17年1942年 『蘇軍野戦築城の素質及防禦築城編成設備に関する図例』  
陸軍士官学校 11月 大型折込図2枚
- 67 昭和18年1943年 『野戦築城教範編纂理由書(案)』1月30日陸軍工兵学校50ページ  
『野戦築城教範編纂理由書(第二部)』五十嵐少佐著  
7月教育総督部調整 11月陸軍工兵学校複写 孔版印刷32ページ  
『築城原則に関する課題』孔版印刷6枚付図
- 68 昭和18年1943年 『特殊陣地攻撃に於ける師団工兵の行動の参考』陸軍工兵学校  
8月 孔版印刷 極秘 172ページ付表付図多数
- 69 昭和18年1943年 『昭和18年改訂生徒及学生用 築城教程 全』202号10月  
陸軍航空士官学校 91ページ付図付表多数  
『築城教程付録 参考書』203号 59ページ付図同一本2冊
- 70 昭和18年1943年 『野戦築城教範 第二部』陸達第26号10月10日豆本尚兵館
- 71 昭和18年1943年 『昭和18年改訂 築城学教程 全』821号12月  
陸軍士官学校 118ページ付図付表多数
- 72 昭和19年1944年 『築城転地演習記事』2月陸軍工兵学校五十嵐 孔版手書き
- 73 昭和19年1944年 『野戦築城教範第一・二部』陸達第26号8月5日 武揚堂豆本

7 4 昭和 20 年 1945 年 『野戦築城教範 第二部』陸達第 2 6 号 3 月 2 5 日 豆本

軍隊教育用図書株式会社

7 5 刊年不明 『永久築城学教程 卷二別冊』図面集 1 2 図

7 6 刊年不明 『第三十八期生徒用 築城学教程』孔版印刷 9 4 枚

7 7 刊年不明 『改訂 歩兵八書（射撃築城付表付図）付録』

築城の内題 野戦築城教範付図 1 4 3 図

以上、目録にあるように、全資料を所蔵できたわけではないが、77 種 103 冊の刊行物には、著作に関する履歴の記載が多くあり、初めて、研究史の大筋が明らかにすることになりました。すなわち、これまで、残片的に伝えられてきた、築城学教程の系譜を明らかにするものです。臨時築城、永久築城、築城沿革略史成立の過程を明らかにします。築城教程の初めての編纂は陸軍士官学校外人教師クレットマンです。ここでは築城学教程ではなく、築城教程とされ、臨時築城がまとめられています。

い) 旧陸軍築城資料の嚆矢 築城教程 明治 9 年 8 月 クレットマン著 陸軍士官学校

明治 9 年 8 月 陸軍士官学校学科部『築城教程』内題 築城教程読本

和紙活字袋とじ本 1 2 5 mm x 1 8 0 mm x 1 4 mm 紙数 9 7 枚

陸軍士官学校が読本つまり教科書として作成、内容は陸軍士官学校教師クレットマン編纂、原胤親訳 付図が 9 1 図不明。本文 1 冊本付図不明。

本文内容 1 一般の要領並に定説 2 野堡を総称して堡塁の名目 3 経始 4 堡塁内部の編制 5 副防禦 6 遮蔽法及び野堡構築 7 変地に於ける堡塁 8 設堡陣地の攻撃及び守防 9 野堡の活用 以上、当時の要塞の実務書となっている。

ろ) 臨時築城教程 明治 15 年 6 月

明治 1 5 年 6 月 陸軍文庫刊、第一版全の内容は築城教程とほぼ同様で、1 総論築城の定説 2 堡塁 3 経始 4 堡塁内部の編制 5 副防禦 6 遮蔽法及び野堡の構築法 7 陣地防禦編制法 8 野堡の活用 9 原野に於て軍隊の定位に関する作業 1 0 野堡の攻撃法・防禦法、紙数 138 枚と増補されている。又、築城教程では未発見の付図が 225 図と第二部付図が 127 枚有り、築城教程の不足を保管することが出来るかもしれない。第二部の付図は大版ですが、本文は不明である。

は) 築城学教程の始め 永久築城の内海岸築城 明治 17 年 9 月 陸軍大学校講本

築城学教程がどのように編纂されたのか、その経過は残された資料で見える限り、一度に完成したものではなく、全体の構想があり、必要なものから編纂されたものと見受けられる。編纂は臨時築城と永久築城に分かれているが、臨時築城が先の臨時築城教程で踏襲したものか、築城学教程においては、初期、永久築城のみしか見受けられない。すなわち、明治 17 年築城学教程初出永久の部第 5 編海岸築城と、ほぼそれに近い時期と推定される永久築城第二教程卷之二第五編海岸築城である。明治 28 年に第三版永久築城の部第四編まで、築城学教程は永久築城のみで、臨時築城は見られない。築城学教程は陸軍大学校の講義本として、9 月 陸軍大学校助教工兵大尉三村友芸によって、編纂され、陸軍文庫蔵とされている。

この時代の陸軍士官学校、陸軍大学、陸軍文庫の関係の整理は別途行いたい。

なお、築城学教程においては海岸築城の第 1 版は明治 24 年石川工兵大尉編纂としている。

に) 築城学教程の巻 1 臨時築城完成 明治 2 0 年 12 月 臨時築城の部

ほ) 築城学教程巻 1—3 巻完成 明治 3 2 年 7 月 巻 2 交通の部完成

明治 31 年改訂築城学教程は巻 1 臨時築城、巻 3 永久築城となり、翌、明治 32 年 7 月 教官陸軍工兵大尉岡田直方が巻 2 交通を編纂し、ここに、築城学教程巻 1—3 が完成したことになる。ただ、巻 1 の履歴に臨時築城の部明治 20 年 12 月編纂と有り、この完成時期を明示している。

へ) 築城学教程 素質 明治 24 年 5 月 陸軍砲兵学校陸軍工兵大尉石川義仙編纂

要塞戦術学教程 明治 25 年 2 月 陸軍砲兵学校陸軍工兵大尉中村愛三編纂

築城学教程 要塞配置 明治 29 年 7 月教官陸軍大尉松井倉之助編纂

砲兵学校 要塞戦史 明治 33 年 7 月

築城学教程 要塞編成 明治 36 年 6 月

築城学教程 築城歴史 明治 41 年 明治 40 年 11 月築城素質の一部明治 36 年陸軍工兵少佐松井倉之助、大尉島捨吉編纂大尉松井順訂正築城歴史第 1 版とする。

陸軍砲兵学校が欧米の要塞戦術書や士官学校本を引用書目として、編纂したもの。

と) 築城沿革略史の初出 明治 33 年 4 月教官陸軍工兵大尉庄田藤治編纂

明治 33 年築城学教程は巻 1 臨時築城、巻 2 交通、巻 3 永久築城に加えて、巻 3 付録を添付している。表題は単なる、付録であるが、内題は築城沿革略史となり、ここに始めての日本築城史が登場する。翌、明治 34 年版には、表紙にはっきりと築城沿革略史と明記され、陸軍士官学校刊行物ナンバー百が付されている。このナンバーは巻 1 にのみ表示されるが、おおよその刊行年を推定することが出来る。

内容は巻 3 付録 **内題築城沿革略史 明治 33 年 4 月教官陸軍工兵大尉庄田藤治編纂**

34 年 9 月教官陸軍工兵中佐榊原昇造増補

- 1 外国築城の沿革 2 本邦築城の沿革 19—80 ページ 付図 17 版 23 図 18 図大庭古城  
19 図菅谷村古城明治 33 年 3 月 29 日歩兵中尉多賀宗之著  
20 図松山古城明治 33 年 4 月 1 日騎兵中尉佐伯岩二  
21 図鉢形古城明治 33 年 4 月 10 日測図歩兵中尉吉田護朗 騎兵中尉壬生基義  
23 図五稜郭平面断面図 陸軍工兵大尉岡田直方

となり、当時の貴重な測量図面と測量軍人の名前が明記されている。

明治 42 年版に置いては巻 3 に含まれ、巻 3 永久築城 141 ページ付図付表となる。

付録 1 要塞戦戦例 2 外国築城之沿革 3 本邦築城の沿革 4 海軍の戦闘材料 136 ページ 67—126 は日本築城史

付図 25 版 36 図内 25—30 図は明治 33 年版と同様古城図

ち) 大日本築城史稿本 築城資料 陸軍築城部本部

『築城史料』命第 33 号 明治 43 年 3 月 31 日築城部本部長村田淳

本書を以て本邦築城術沿革研究の参考とナスヘシ

築城史料は大日本築城史編纂の稿本なり。373 ページ。

大庭古城・菅谷古城・釜山鎮城・品川台場・五稜郭・和田岬・川崎・今津・西宮砲台図収録

り) 築城学教程 2 冊本野戦築城、永久築城 大正 9 年昭和 4 年

築城学教程は交通がなくなり、野戦と永久の項目 2 冊となり、日本築城史も消滅する。

ぬ) 戦術兵器築城の沿革並戦史集 陸軍士官学校 第 4 築城の沿革 昭和 4 年

第 4 築城の沿革 117—128 ページですが、内皇国 6 ページのみ、

付図 菅谷古城、豊臣氏の大坂城、品川台場、五稜郭のみ他図多数

昭和 9 年に改訂兵器射撃築城交通測図航空の沿革集全と改題。13 年まで出版される。

る) 築城学教程 1 冊本 昭和 17 年昭和 18 年

築城学教程は昭和 7 年、13 年、15 年、16 年と巻 1 のみが確認され、巻 2 が見られない、同時に、昭和 8 年学生用として 1 冊本が、さらに、陸軍航空士官学校も昭和 16 年、17 年 1 冊本を、ついに、昭和 17 年陸軍士官学校も昭和 17 年改訂築城学教程全として 1 冊本となった。昭和 18 年の陸軍航空士官学校 1 冊本は築城学教程でなく、築城教程に戻っている。

陸軍士官学校の築城学教程は 1 冊本として、昭和 18 年まで見られる、刊行ナンバーは 821 冊目となった。本文中刊行ナンバーは省略したが、目録にはわかる範囲で付与している。